

研究課題名	皮膚悪性腫瘍における腫瘍微小環境の予後・治療効果に与える影響の解明
研究の意義・目的	この研究では、皮膚悪性腫瘍における腫瘍の微小環境と治療効果、予後との相関を解明することを目的としています。近年様々な悪性腫瘍に、免疫チェックポイント阻害剤という免疫を介して悪性腫瘍の治療を行う薬剤が広く使用されるようになっていきます。この免疫のお薬を使う上で、腫瘍の中や周囲に集まっている免疫細胞の種類や数が、治療の効果を予測したり、患者さんの予後を予測する上で重要な因子であるとわかっています。皮膚悪性腫瘍は比較的他の癌に比べると稀な悪性腫瘍であり、まだ十分なデータがありません。まだ皮膚悪性腫瘍では悪性黒色腫以外では免疫チェックポイント阻害剤は使用できませんが、今後使用できるようになる可能性があります。この研究を行うことで、今後薬物療法が使えるようになった際に、どのような患者さんにより使用すべきなのか、ある程度予測できるようになる可能性があります。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ~ 2029 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2014 年 4 月~2027 年 3 月に大阪公立大学医学部附属病院の皮膚科へ、皮膚悪性腫瘍（悪性黒色腫、乳房外パジェット病、血管肉腫、メルケル細胞癌、皮膚附属器癌）と診断され、検査・治療を受けた方が対象となります。18 歳未満の方は除外いたします。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 <ul style="list-style-type: none">・患者基本情報：年齢、性別、診断名、病歴、治療内容、経過・予後：生死の有無、最終生存確認日、死亡日、再発の有無、再発確認日・血液検査：白血球数、LDH、CEA、SCC 抗原・病理検査：病理検査結果（腫瘍の厚み、病理組織学的診断名）、病理組織ブロック（TILs の細胞数、TILs の各種サブセットの浸潤数および割合）
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科皮膚病態学のみで行います。 【研究責任者】後藤寛之
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 皮膚科 担当者氏名：後藤 寛之 電話番号：06-6645-3826 メールアドレス：u23276p@omu.ac.jp